

3-4 夜間の照明に関する実践事例



取組の概要

川越市並木自治会では、夜間、駅から帰宅する際、住宅地の路地が暗く、住民が犯罪への不安を抱えていた。

そこで、自治会で話し合い、各戸が深夜まで門灯を点灯し、路地を明るくする取り組みを開始した。

夜間の門灯一斉点灯運動

16 埼玉県 川越市 並木自治会

キーワード

- ◆ 一軒一灯がまちを明るく
- ◆ 地域のなわばり意識を高める取り組み
- ◆ ひとつの取り組みが地域の結びつきを強くする

取組の方針と内容

◇ 一軒一灯がまちを明るく

暗い夜道を一人で歩くことは、誰もが不安を感じるものである。このような状況を改善しようと地域で取り組んでいるのが川越市並木自治会の方々である。自治会で話し合いを行い、各家庭の門灯を深夜まで点灯し、路地を明るくする取り組みを開始した。

◇ 地域のなわばり意識を高める取り組み

この取り組みは、まちを明るくすることで、夜間の監視性を確保するだけでなく、地域住民が「みんなで守り合っている」「防犯に取り組んでいる」というメッセージの発信となり、犯罪企図者に「ここでの犯行は無理だ」と思わせる。そのため、地域のなわばり意識を高めること（領域性の強化）にも効果がある取り組みといえる。

◇ ひとつの取り組みが地域の結びつきを強くする

近くにある公園の清掃活動も、この地域の住民が行っており、夜間の門灯一斉点灯運動というひとつの取り組みが地域の結びつきをより一層強めた。

コメント

防犯灯を増加することには限界がある。防犯灯と門灯を連携することは、住民を巻き込む効果を持つ。クリスマスの電飾を、地域において一体で行うなども同様の効果を生む。